

(5) 東海



東海地域では、景気は持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(〃は上方に変更、〃は下方に変更)。

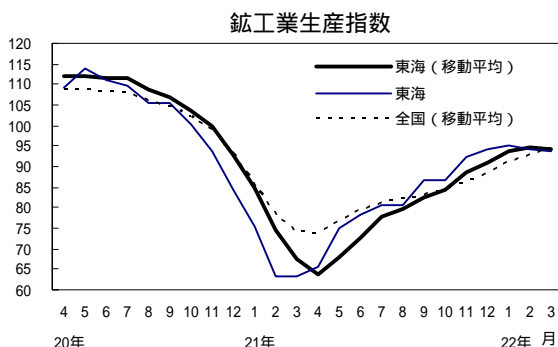
前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年2月)	今回(平成22年5月)	
鉱工業生産	増加している	緩やかに増加している	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直している	
住宅建設	大幅に減少	減少	
雇用情勢	下げ止まりつつある	持ち直しの動き	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

輸送機械は、乗用車や自動車部品を中心に緩やかに増加している。一般機械は、金属工作機械がアジア向けに持ち直しているほか、動力伝導装置や軸受が自動車産業向けに増加している。電子部品・デバイス、情報通信向けの半導体素子・集積回路が高水準での横ばいとなっている。プラスチック製品は、自動車産業向けプラスチック製工業用製品を中心に増加している。化学は、医薬品を中心に増加している。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。
2. 全国及び東海の太線は後方3か月移動平均。

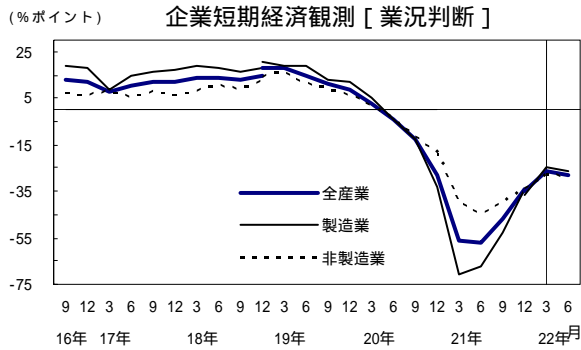
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
輸送機械	37.5	14.8	3.3	1.7	3.3
一般機械	12.7	15.5	13.1	12.7	13.9
電子部品・デバイス	6.8	5.4	0.8	10.5	2.9
プラスチック製品	5.4	3.5	5.0	4.2	2.5
化学	5.0	3.5	2.3	0.9	5.2
鉱工業	100.0	10.2	3.7	3.8	0.1

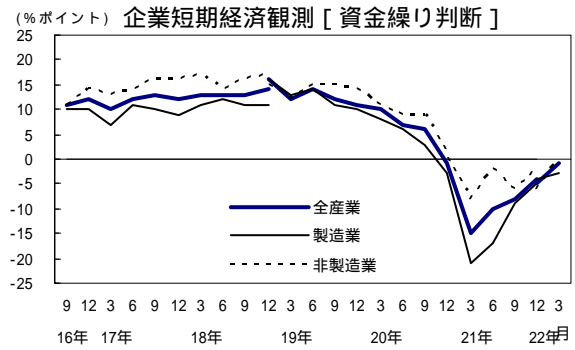
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 生産指数は東海、出荷、在庫指数は中部。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

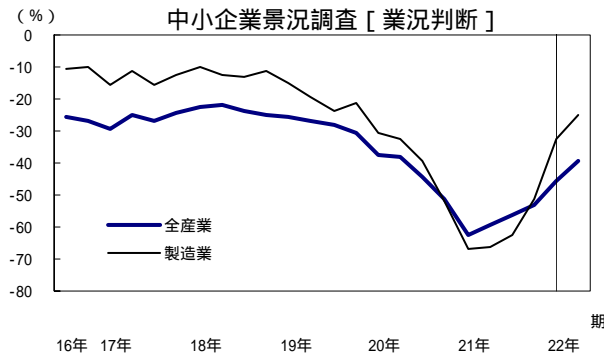
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

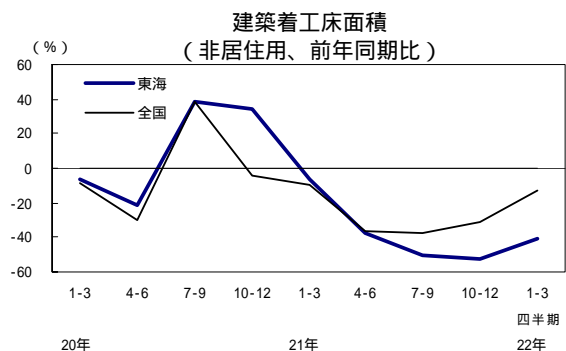
「不動産業界では、分譲マンション、一戸建て共に、来客数、契約率が上がってきている。ただし、内容は依然として厳しく、予断を許さない状況が続いている(建設業)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた。

(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度計画
全産業	26.5[24.8]	1.5
製造業	46.5[44.1]	2.6
非製造業	2.4[3.0]	4.6

(備考) []は前回(12月)調査結果。



2. 需要の動向

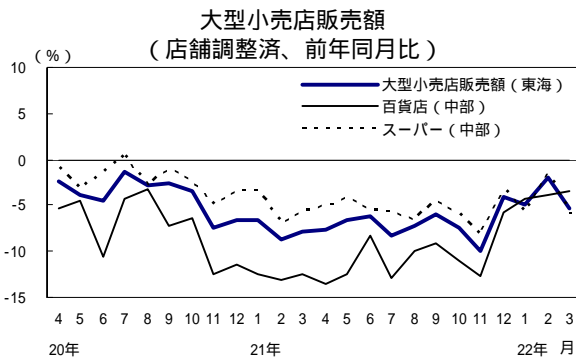
(1) 個人消費は持ち直している。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、クリアランスセールの前倒しの影響や初売りなどで、衣料品の売上が伸びなかったものの、物産展が堅調であったほか、高額品にも動きがみられたことなどから、前年比の低下幅が縮小した。2月は、下旬に天候に恵まれ、春物衣料に動きがみられたほか、物産展の好調などから、前年比の低下幅が縮小した。3月は、寒暖の差が大きかったうえ、降雨日が多かったことから、春物衣料の動きが鈍化したものの、物産展が好調であったほか、高級品に動きがみられたことなどから、前年比の低下幅が縮小した。日本百貨店協会によると、4月の売上高は名古屋市で前年同月比2.0%減、名古屋市を除く中部地区で同2.7%減となっている。スーパーは、客単価の低下が継続しているものの、2月下旬に天候に恵まれ、春物衣料に動きがみられたことや、野菜価格が上昇したことなどから、前年同期比の低下幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「前年から立ち読み客が増えており、105円の本しか購入しない状態が続いているため、単価も相変わらず低い。客の流れが良くない(一般小売店[書店])」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



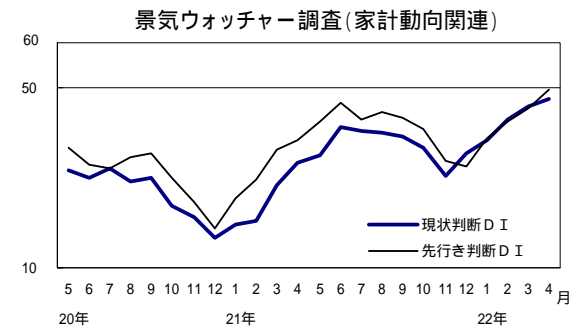
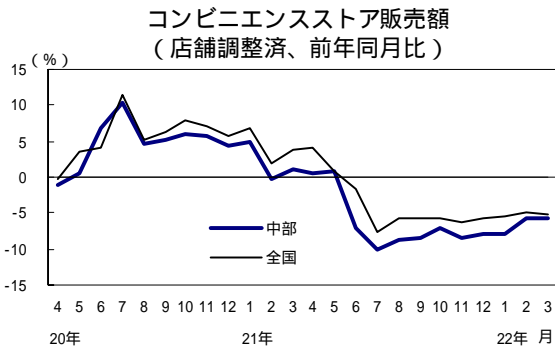
	(前年同期比、%)			
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	6.8	7.2	7.0	4.2
百貨店	11.4	11.0	9.5	3.9
スーパー	5.0	5.6	5.7	4.5
乗用車	19.5	1.2	19.7	24.1
景気ウォッチャー	36.5	39.9	34.1	42.4

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

百貨店、スーパーは中部地区。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

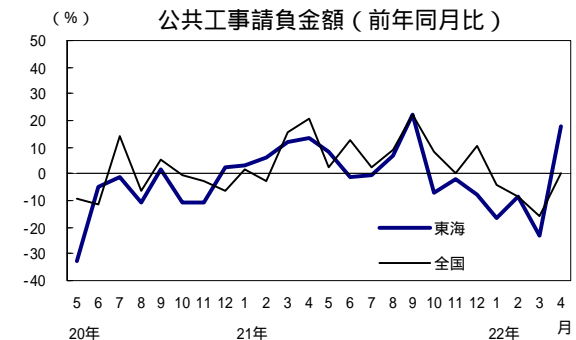
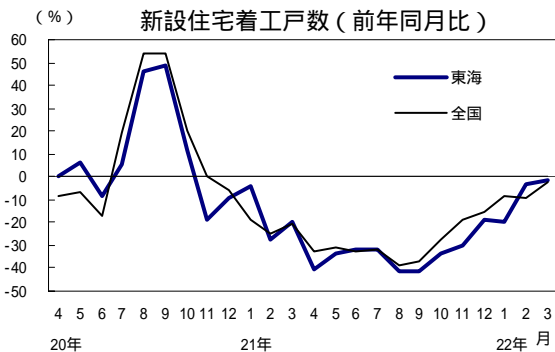
3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は減少している。

貸家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度とほぼ同水準となっている。

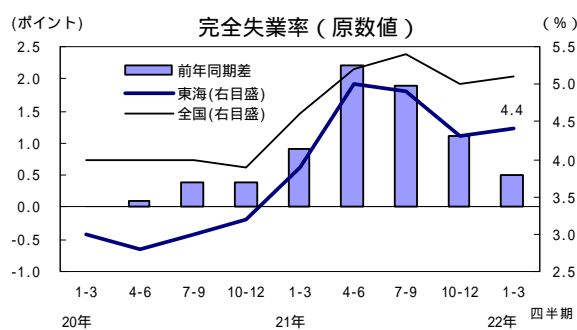
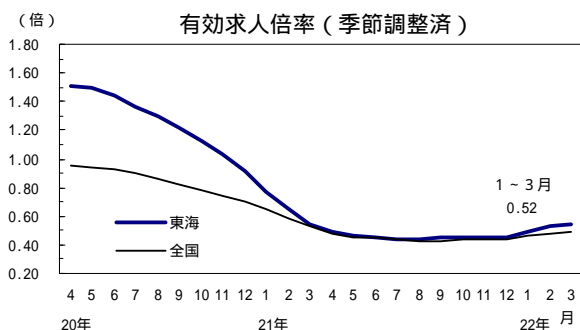


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を上回っている。



景気ウォッチャー調査(4月)[雇用関連(現状)]

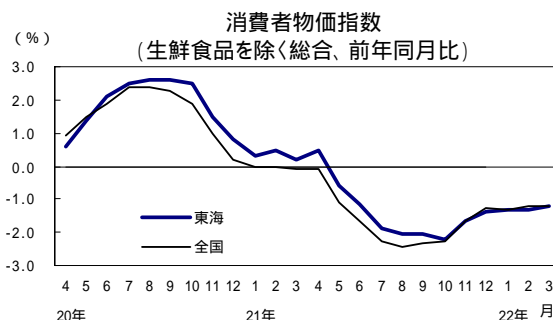
「派遣契約の需要が、少しずつ見られる。ただし、企業は慎重に対応しており、従来のような長かつ大量の注文は見られない。また、取引単価も、従来より1~2割落ち込んでいる(アウトソーシング企業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数	328	361	377	363	108
(前年比)	1.2	4.6	9.9	12.3	0.0
負債総額	1,547	717	832	574	220
(前年比)	13.8	3.7	39.1	75.1	77.0



景気ウォッチャー調査(4月)[合計(特徴的な判断理由)]

<現状>

- ・製造業の生産回復により、保管需要、配送需要共に右肩上がりとなっている(輸送業)。

<先行き>

- ・補助金制度のおかげで、この2~3か月間の新車販売は好調に推移する。補助金制度が終了する9月以降は大幅に減少すると思われるが、その前には駆け込み受注も見込める(乗用車販売店)。

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

